

バリアフリー教室（函館会場）実施概要

1. 開催日時：令和3年10月7日（木） 10:15～11:50 及び 13:10～13:55
2. 会場：函館市立赤川小学校
3. 参加者：函館市立赤川小学校 小学4年生～6年生（42名）
4. 主催：北海道運輸局函館運輸支局
5. プログラム提供：公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター
6. 協力：一般社団法人北海道視覚障害者福祉連合会
7. 後援：北海道
8. 実施概要：東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとなる「真の共生社会の実現」に繋げるため、午前の部では6年生を対象に、講師による講話とブラインドサッカーなどパラスポーツの模擬体験。また午後の部では4～6年生を対象に、公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンターがプログラムを提供する「あすチャレ！ジュニアアカデミー」と連携し、パラ・パワーリフティング選手である戸田雄也選手を講師に迎え、オンラインを活用したワークショップ型の授業により、障がい者をより身近に感じることで、互いに寄り添い、支え合える共生社会の実現について、学び、一緒に考えた。



9. アンケート結果より抜粋

- ジュニアアカデミーを通して思ったことは、人はどんな事が起きても立ち直れることです。ぼくも何があっても立ち直ることができると思っています。車いすの生活はバリアフリーの設備が整っていないと不便だと思いますが、頑張ってください。ブラインドサッカーもやって、パラリンピック競技を体験してみましたが、自分の思っているようにボールをパスすることなどができず、パラリンピックの難しさを知ることが出来ました。
- 王子の原因が分からずに足が動かなくなったのは、そこまで例がないので当時はすごく怖かったと思います。ですがその中で、パラリンピックに出会って、自分でもスポーツができるようになったことで、王子は立ち直れたので、パラリンピックの大切さを理解出来ました。そして障がいのある人でも楽しめるスポーツがあると、気が楽になるし、みんな平等に楽しめるスポーツがあることを知ったので、私自身も楽しかったです。